

第109号

発行

令和8年7月28日

責任者

福島県公立学校

退職校長会安達支部

佐藤 英之



【巻頭言】

まなざしがつなぐもの

副支部長 井関 和明

二年ほど前から、「ちび」という名の保護犬と暮らしています。三春町の動物愛護センターとのご縁で、わが家の一員となった保護犬です。以前は県の獣医師派遣事業で小学校を訪問する「ハピまる犬」として三年間活動していました。保護される前は二本松市の山中をさまよっていたそうで、センターの職員の方がハンバーガーを手に幾日も通い、ようやく保護したと伺いました。

家に来た当初の「ちび」はとても臆病でした。餌を食べず、家の中を落ち着きなく歩き回り、ただ窓の外を眺める毎日でした。別の名前を付けることも考えましたが、それまで生きてきた証

でもある「ちび」という名前を、そのまま残すことにしました。今ではすっかり家族の一員となり、私が帰宅すると玄関まで迎えに来てくれます。朝夕の散歩は私の日課となり、家族の話題も自然と「ちび」が中心になりました。

「ちび」は、甘えたい時や何かを求めている時、じっと私の目を見つめます。その真つすぐなまなざしに接するたび、私は教壇に立っていた頃の子どものた

ちの目を思い出します。犬と子どもを比べるつもりはありません。しかし、子どもたちもまた、教師に助けを求め、思いを伝えようとして見つめていたのではないのでしょうか。そ

して私は、その思いを十分に受け止めることができていたのだろうか、退職した今でも自問することがあります。

退職後、五年間にわたる通信制・定時制高校で勤務しました。そこには、

小・中学校時代にはほとんど登校できなかったにもかかわらず、高校では休まず登校している生徒が少なくありませんでした。「なぜ高校では通えるようになったのですか」と尋ねると、「友達が励ましてくれるから」「一度休むとまた通えなくなりそうなので、高校では休まないと決めている」と、それぞれ違った答えが返ってきました。不登校になる理由が様々であるように、学校へ向かう力となるものも一人一人異なります。

多くの生徒と接する中で、一つだけ確信したことがあります。それは、小・中学校時代を含め、子どもたちが出会った先生方との関わりや学校での経験が、時を経てその後の人生を支える力になっているということです。現場では努力してもすぐに成果が見えず、自分の指導に迷うこともあったかもしれませんが、し

かし、子どもたちは教師が思う以上によく見ています。そして、私たちが現役時代に子どもたちへ届けた言葉や励ましは、年月を経て子どもたちの人生を支える確かな力になっているのだと、今、そのことを深くかみしめています。

私たちは第一線を退いた今も、教育への思いまで退いたわけではありません。退職校長会では、毎年、地区の管理職の先生方との交流を続けています。教育を取り巻く環境は大きく変化していますが、私たちが長年培ってきた経験や知恵は、今の学校や現役の先生方の力になるはずで

す。それぞれの立場から学校や地域を支え、子どもたちの成長をこれからも見守り続けていきたいものです。家では「ちび」のまなざしに癒やされ、学校では子どもたちのまなざしに支えられ、育てられてきました。その二つのまなざしは、今も私の心の支えです。教育に携わった者として、これからも子どもたちの未来を信じ、学校や現役の先生方を支える歩みを、皆様とともに続けてまいりたいと思います。

令和八年度（第六十二回）

安達支部総会を開催

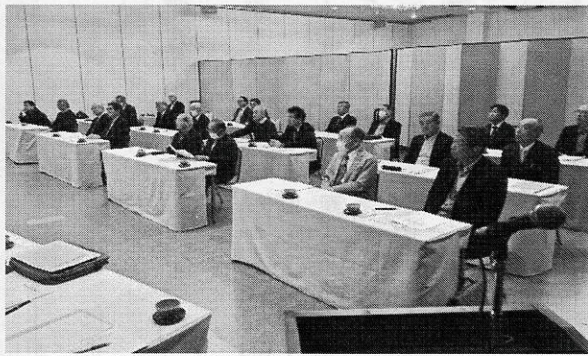
令和八年度退職校長会安達支部総会は、四月十八日（土）三十五名の会員の出席のもと二本松御苑を会場に開催されました。開会に先立ち、この一年間に亡くなられた本会会員の方々のご冥福を祈り黙祷を捧げました。



佐藤支部長の挨拶

高島徹也副支部長の開会のことばの後、佐藤英之支部長の挨拶では、これまでの各種支部事業への支援協力や今年度の長寿会員等に該当する会員の皆様へのお祝いと新入会員二名様への歓迎の言葉がありました。

また、今年度の二回の研修会、現職校長との教育懇談会の充実を図っていききたいと話し、挨拶を終えました。



本年度の総会の様子

次に、長寿会員の紹介とお祝い金の贈呈を行い、出席いただいた宮前貢様から、挨拶をいただきました。



宮前貢様へのお祝い贈呈

続いて、出席いただいた新入会員の太田孝志様から、挨拶をいただきました。



太田孝志様の挨拶

松井義孝氏が議長に選出され、議事の審議となりました。

- 一、令和七年度事業（会務）報告
- 二、令和七年度会計決算報告
- 監査報告
- 三、令和八年度事業計画（案）
- 四、令和八年度会計予算（案）
- 五、その他

円滑に議事が進行され、すべての議事が承認されました。令和八年度の主な事業を紹介いたします。

第一回研修会（実施済み）

- 日時 六月二十日（土）
- 講師 福島大学特任教授 渡邊健順氏
- 演題 教職をめざす若者達の今―大学で見えてきたZ世代の姿―

第二回研修会

- 日時 十月十三日（火）
- 福島県立あだち支援学校 二本松校舎訪問

教育懇談会

- 日時 十二月四日（金）
- 場所 二本松御苑

総会終了後は、石川不二雄顧問の発声で、和やかな雰囲気の中で懇親会が開催されました。久しぶりにお会いする方も多く、会員相互の親睦を深めることができました。

第六十回福島県公立学校退職校長会

西白河大会参加

令和八年六月九日（火）、第

六十回福島県公立学校退職校長会西白河大会が、白河市の「シン鹿島」において開催されました。本支部からは、佐藤英之支部長、渡部祐司事務局長、庶務の紺野宗作氏、会計の佐藤則之氏、体験発表者の日下部善巳氏の五名が参加しました。

開会式では、福士寛樹会長の挨拶、鈴木且雪大会実行委員長の挨拶がありました。



福士会長の挨拶

福士会長の挨拶の中では、青森県をはじめ複数県が会員数の減少により、退職校長会の全国

組織から脱会したことが報告されました。

福島県も今年の退職校長会の加入率は五十パーセントを割っており、今こそ退職校長会の設立時の理念に立ち返り、その存在意義を高め、一丸となって取り組んでいきたいと決意を述べられました。

開会式後は、白河市建設部文化財課文化財専門研究員 鈴木勇氏による「史跡小峰城跡の地震被害からの復興への姿」と題して講演会が行われました。

一般的な石垣修復では、崩れていない部分を真似て、新しく石を削って積むそうです。しかし、小峰城の石垣は、江戸時代の伝統工法で修復し、また、崩れた石垣は再利用し、震災前に撮影された写真をもとに忠実に再現していることに驚きました。

また、この修復方法は、文化財石垣修復のモデルケースと評価され、熊本城をはじめとする石垣の災害復旧に波及し、鈴木勇氏は全国各地に出向いて石垣修復の指導を行っているとのことでした。

午後の体験発表では、本支部の日下部善巳氏が、「石川弾正顕彰会の創設と活動」と題し、ご自身のふるさと、百目木城の戦国武将石川弾正顕彰会の活動の発表をしました。



日下部善巳氏の発表

講演会や研修会の開催、百目木城の清掃ボランティア、会報の発行などの通常の顕彰活動に加え、現在は、「百目木小唄」の大正琴による復活や顕彰会イメージキャラクターの制作、旭

小学校での地域学習支援など幅広い活動に発展しています。これらの活動を通じ、地域住民が自分の郷土に誇りを持ち、地域の一体感の創出に大きく貢献している顕彰活動であることを感じました。

そのほか、北会津支部の滝沢玲子氏が、「肉眼で見えない世界に迫る」、相馬支部の高橋誠氏が「生かされた命を生きる」と題し、体験発表を行いました。最後に、「大会宣言」が読み上げられ、次期開催支部のいわき支部より挨拶があり大会は終了しました。



本支部5名の参加者

第一回研修会開催

六月二十日（土）十時より、

二本松市文化センターにおいて、退職校長会安達支部会員で福島大学特任教授である渡邊健順先生の講演会を、本支部会員二十四名の参加のもと開催しました。

演題は「教職を目指す若者たちの今―大学で見えてきたZ世代の姿―」。教員不足や若い教員の質の低下等が叫ばれる中、大学で教員を目指す学生の指導をされている先生のご苦労等についてのお話がありました。

講演の冒頭では、実際に大学の講義で行った社会科に興味を持たせるクイズを行いました。西郷隆盛と大久保利通の仲に亀裂が生じていく様を、クイズを通してながら理解させていくという体験ができました。参加者も学生になった気分でした。

次に、講義後の自由記述アンケートに、SNS感覚で露骨に失礼なことを平気で記述したり、模擬授業で帽子をかぶったまま

授業したりするなど常識を逸する様々な言動があることをお話されました。先生は、今の学生は、社会性、自律性、耐性等に課題があり、教員の離職率の高さに繋がらないように学生の学びをさらに充実させていかなければならないことを述べられました。

先生は、パワーポイントを駆使し、学生に対して腹が立つことを元巨人の原辰徳の写真を交えながら説明したり、今の学校の現状を説明するときには仮面ライダーブラックを引き合いに出したりしてユーモアたっぷりにお話をされました。

最後に、授業案をしっかり書けるようになることに重きを置いて指導し自信を持って教育現場に送り出したいと述べられ講演は終了しました。

終わりに、佐藤英之支部長が御礼のことばを述べました。これからの教育界を背負っていく若者たちの育成にご尽力されているお話を伺い、参加者一同深い感銘を受け研修会は終了しました。

研修会参加者の感想

否定しないことの難しさ

紺野 真一

一九八〇年代の始めの頃、学生だった私たちの世代は、「新人類」と呼ばれ、当時の大人たちから「理解不能の新世代」と揶揄されていました。そのなれの果てとして、絶対に「近頃の若い人たちは……」とだけは言うまいと心に誓っていたのですが、社会の変化についていけず、つい愚痴がこぼれそうになる毎日です。

先日の研修会で、渡邊健順先生から、ICTを駆使しながら、教職をめざすいわゆる「Z世代」の学生についていねいに接しているお話を伺い、自分の想像力の未熟さを改めて感じました。

昨年まで、私は初任者研修の研修コーディネーターをしていましたが、若い先生たちは、評価をとっても気にしているように感じました。研究授業でうまくいかないといびく落ち込む方も

いました。彼らは否定されることに慣れていないのだと感じました。そして正解を示されることを望みます。私はそれに応じてしまっていたのですが、健順先生は違っていました。

健順先生は、彼らの気持ちに寄り添い、彼らとその思いを共有することを第一にされていました。

最近、自分の悩みをAIに相談する人が多いということを耳にしました。AIは、基本的に相談者を否定しません。しかしそれは、相談者に誤った判断をさせてしまうことがあるとも聞きました。先生のご講演から、高度情報社会で私のようなアナログ人間が生きていくには、若い人たちの思いを受けとめ認めた上で、いくつかの道を示唆することではないかと気づきました。

（それは違う。）と思いつつ、まずは、「そうか。そう考えているんだね。」と相手とその思いを共有する。そんな大人の余裕を見せる「イケオジ」になりたいと思います。

本地区長寿会員の紹介

年度内 満八十五歳

宮前 貢 様

野崎 順道 様

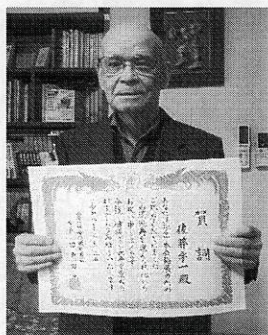
久間木 俊二 様

國分 長次 様

全連退賀詞会員の紹介

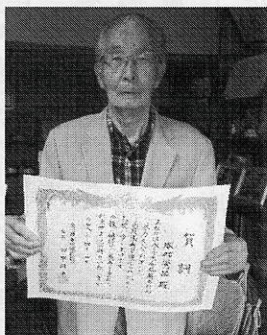
令和七年度 満八十八歳

佐藤 宇一 様



令和八年度 満八十八歳

服部 覚悟 様



高齢者叙勲受章会員の紹介

瑞宝双光章

佐藤 宇一 様

(元大玉村立大山小学校校長)

瑞宝双光章

服部 覚悟 様

(元二本松市立二本松北小学校校長)

叙勲受章の紹介

瑞宝双光章(令和七年度秋の叙勲)

原瀬 久美子 様

(元本宮市教育長)

瑞宝双光章(令和八年度春の叙勲)

青田 誠 様

(元本宮市教育長)

叙位叙勲受章の紹介

正六位瑞宝双光章

伊藤 正 様

令和八年二月十九日ご逝去

(元岩代町立新殿小学校校長)

☆☆心よりご冥福を

お祈り申し上げます☆☆

佐藤 邦英 様

令和八年二月十七日ご逝去
(元二本松市立塩沢小学校校長)

会員随想

風を切る新たな軌跡

紺野 宗作

ラグビーという激しい接触スポーツに身を置いてきた私にとって、五十歳過ぎてからの左膝の半月板損傷は青天の霹靂でした。グラウンドを駆ける喜びを奪われ、失意の中で医師から勧められたのがロードバイクでした。当初はあくまで膝への負担を抑えた「リハビリ」の一環に過ぎませんでしたが、ペダルを漕ぎ出した瞬間、私の人生に新しい風が吹きこまれました。

風を切り、自分の力だけで景色を塗り替えていく爽快感。ラグビーが「衝突」の美学なら、自転車は「循環」の美学です。ペダルを回すほどに、沈んでいた心に新鮮な酸素が流れ込み、リハビリという受動的な行為が、いつしか「もっと速く、もっと遠くへ」という能動的な渴望へと変わっていきました。

気づけばリハビリの枠を越え、サイクルイベントや競技大会にエントリーするようになってい

ました。驚いたのは、還暦を過ぎててもなお、目を輝かせてスタートラインに立つ同年代や、さらに年配のライダーたちが大勢いることです。順位を競うだけでなく、完走を目指して自分自身と対話するその姿は、実に清々しく、力強いです。

ラグビーでの怪我がなければ、この二輪の世界を知ることにはなかったでしょう。失ったものを嘆くのではなく、これから与えられた新しい翼を慈しみたいと思っています。六十歳半ばを越えた今、体力の低下をひしひしと感じていますが、これからは無理せずトレーニングをしていきたいです。

ロードバイクが教えてくれた自由な風。今しばらくは、号砲とともに、新しい風の中へ飛び込んでいきたいと思っています。



ヤマダフィルター所属
一企業の広告塔として走る一

娯楽クラブがらのお知らせ

「娯楽クラブ」 随時会員募集中！

予てよりご案内・募集をして
おりました「娯楽クラブ」が六
月二十六日（金）からスタート
しました。今回は、麻雀の部で
四名が参加しました。会場は予
定通り成田四区住民センターで、
全自動麻雀卓を囲んで楽しいひ
とときを過ごしました。参加者
の中には、「麻雀をやるのは何
十年ぶりだろう？」と言いな
が、昔取った杵柄ではありませ
んが、役や点数の数え方を思い
出しながら、和気あいあいと麻
雀を楽しみました。午前九時に
スタートし、あつという間の三
時間でした。帰り際には、次回
の開催日時を皆で確認して会場
を後にしました。



祐司先生、役満（四暗刻）ツモ！

■目的

- ①交流の場をつくる
仲間づくりや会話を通じ
ての交流・親睦を図る
- ②脳の活性化を図る（脳トレ）
考える・判断すること
で認知機能の維持を図る
- ③生きがいづくり
定期的な楽しみが生活に
ハリを与えます

■活動内容

- ①会 費：無料（お茶等持参）
- ②活動日：月に一回午前中
- ③活動場所：成田四区
住民センター
（茶園二―一三二―二）

■参加申し込みについて

○興味ある方、昔は楽しくやつ
ておられた方、まずはお電話
ください。会員登録してい
ただければ、開催日時をお知
知らせしますので、ご都合のつ
くときに参加でも結構です。

○申込先：

090―6225―7470

（発起人・渡部祐司）

令和八年度支部役員

支 部 長	副支部長	監 事	顧 問	理 事
○佐藤 英之	○角田 恒雄	○高島 徹也	○井関 和明	○安田 幹雄
○小濱 伸	○小島 喜一	久保 恒義	石川不二雄	○伊藤 末吉
○三津間勝彦	○鈴木 則雄	○草野 和代	○服部 健	○服部 啓吉
○松浦 健二	○小松 佑	○安齋 好孝	○松井 義孝	○菊池 勇人
○福本 隆	○松本 公秀	○鈴木 一高	○小池 重彰	○渡辺光太郎

事務局長	庶 務	会 計	県評議員	県理事
○渡部 祐司	○紺野 宗作	○渡邊 健順	○佐藤 則之	○佐藤 英之
			渡部 祐司	安田喜市郎

（○は理事）

今年度は役員改選の年
ではありませんので、令
和七年度の役員が引き続
き務めます。

なお、大壇地区の宮前
貢様が理事を退任されま
した。長期にわたりご尽
力いただき心より感謝申
し上げます。後任に安齋
好孝様が新理事となりま
した。また、表地区は、
会員数が多いため二地区
に分け、井関和明様が副
支部長兼新理事となりま
した。

新理事の皆様、どうぞ
よろしくお願いいたしま
す。